

## 四国金毘羅ねぶた祭りとは？

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった「第36回四国こんぴら歌舞伎大芝居公演」を青森県弘前市の国指定重要無形民俗文化財「弘前ねぶたまつり」とコラボさせることにより、復活・再現させます。中止となった第36回公演の演目の一つである「義賢最期」等を高さ約8m級のねぶたに新たに描き下ろし、琴平町内で夜間運行します。イベント期間中には、琴平町内に歌舞伎の「のぼり」や「金魚ねぶた」の展示や関連イベント等も実施します。

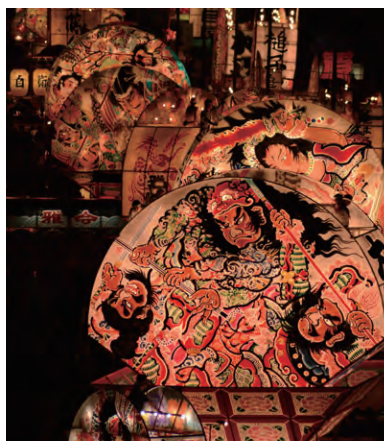


## 四国こんぴら歌舞伎大芝居とは？

「四国こんぴら歌舞伎大芝居」は、毎年4月に、江戸時代(1835年)に建てられた現存最古の芝居小屋であり、国指定重要文化財である旧金毘羅大芝居(金丸座)で開催されています。琴平の春の風物詩として全国の歌舞伎ファンに愛されており、昭和60年に第1回目の公演を行って以来、平成31年に第35回目の公演を終えました。惜しくも令和2年、令和3年は新型コロナウイルス感染症等の理由により、中止となりました。



## 弘前ねぶたまつりとは？



青森県津軽地方の夏を飾る「弘前ねぶたまつり」は、毎年8月1日～7日に開催され、三国志や水滸伝などの武者絵等を題材とした大小約80台の勇壮華麗なねぶたが、城下町弘前市を練り歩く夏まつりで、国から重要無形民俗文化財に指定されています。「弘前ねぶたまつり」の始まりは、昔、農民が夏の忙しい時期に襲ってくる眠気を追い払うため、睡魔を船や燈(とう)籠(ろう)などにのせ、川に流した「ねむり流し」という行事から発展し、祭りになったとされています。「ねぶた」が初めて記録に登場したのは、享保7年(1722)の「御国日記」であり、令和4年(2022)には、300年の記念の年を迎えます。